

《号外》「野川の桜」

秋元 洋子(NPO 法人グリーンコンシューマー東京ネット 理事)

国分寺崖線と並行して流れる野川は、多摩川に合流する支流。国分寺、小金井付近より出る野水を集めて流れはじめた蛇行する野川。戦後整備がままならない野川は大雨や台風でたびたび氾濫していたそうです。

1964年の東京オリンピック開催開発途上で、当時代々木にあったワシントンハウス（米兵住宅）が選手村として使われることになり、移転地として「関東村」（府中基地周辺、調布飛行場周辺）があがり、周辺自治体が受け入れ条件に野川の整備を入れ、遊歩道ができました。

そして1969年調布流域の住民の有志によって400本のソメイヨシノが民間の手で植樹されました。10数年前この流域に社屋のある照明撮影の機材会社は、自社の花見ライトアップだけでなく、地域の人たちにも楽しんでもらおうと、650mわたる桜並木の区間を満開の一夜限りのライトアップをはじめ、市民の環境ボランティアが準備を手伝い、調布市が協力し、ますます野川は人気の場所に定着しました。私もこの野川のほとりに住んで10数年、最近はやがて桜の荒廃をひしひしと感じています。

ソメイヨシノは自生ではなく、接ぎ木で植樹し、苗木は同じ遺伝子を持っているクローンです。だから一斉に咲き、一斉に散り、老いも一斉。病気も一斉に広がりやすく、環境変化にも同じように弱くなります。

寿命は50年と言われています。野川の桜も46年がたちました。そして160本が姿を消しました。遊歩道には大きな切り株の真ん中は空洞、太い幹から出ていた太い枝の伐採が目立ち始めています。枯れ始めている幹の根元には、肥料を施して枯れ死を防ごうと動いている市民団体。野川水系河川の管理は東京都、遊歩道の管理は調布市となかなか環境の保全の連携はうまく運びません。

野川は四季折々、自然の動きを教えてください。桜並木も手入れと、環境の保全で寿命を伸ばしながら、新しい桜の植樹をして守ろうとする動きが始まりました。緑あふれる緑地や自然を確保し、残していきたいと思います。

以上